

# 水土会会報

vol.6  
2023年10月

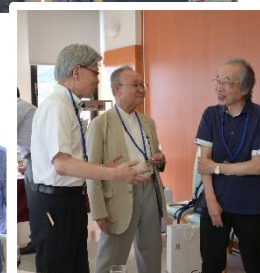
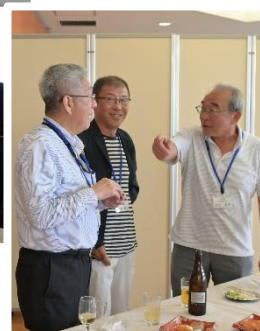
NEWS LETTER

## 令和5年度 水土会交流会を開催しました！

令和5年9月9日(土)に神戸大学社会科学系アカデミア館レストランさくらで開催しました。36名の方が参加し、会員同士また先生や学生との親睦・交流を深めることができました。



小前会長の挨拶、田中丸先生から大学の近況報告、宮崎顧問による乾杯でスタートし、途中、各世代の方々から近況報告をしていただくなど、大いに盛り上がり、あっという間に時間が過ぎました。また、交流会の最後は、福田副会長の挨拶で閉会しました。





# 神戸大学農学部農業土木系プログラム

## 近況のご報告



水士会顧問  
田中丸 治哉

生産環境工学コース  
水環境学教育研究分野 教授

水士会会員の皆様、また水士会事務局の方々には平素より大変お世話になっております。厚く御礼申し上げます。農学部の農業土木系プログラムである「食料環境システム学科・生産環境工学コース・地域環境工学プログラム」の近況をご報告します。

今年4月の会報でも短くお伝えしていますが、地域環境工学プログラムが日本技術者教育認定機構(JABEE)の継続認定を受けたことをご報告します。同プログラムは、JABEE認定を受けている神戸大学で唯一のプログラムです。令和3年度から4年度にかけて6年ごとに実施される継続認定審査を受審しておりましたが、令和5年3月に継続認定が決定しました。当プログラムの修了生は、本学卒業と同時に修習技術者となり、技術士の第一次試験が免除されますので、通常よりも早く技術士の第二次試験が受験できます。多くの修了生が技術士として活躍することが期待されます。JABEE認定を受けたプログラムでは、社会の要望に応える教育が求められており、その教育内容を評価していただきご助言をいただくためには、水士会の皆様のご支援が不可欠です。プログラムの教育に引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

次にコロナ禍を経た教育研究の状況についてご報告します。新型コロナの流行中は、コロナ感染者が増えるとオンライン授業とし、それが下火になると対面授業としていましたが、令和4年度から対面授業が主となり、令和5年度からはほとんど全ての授業が対面授業となりました。教員の海外出張や留学生の受け入れは、令和4年度から解禁となっています。また、一頃オンラインのみであった学会発表は、令和4年度から対面形式ないし対面・オンライン形式の併用となっていました。令和5年度からは、学会開催中の懇親会(情報交換会)も解禁となり、ほぼ従前の状況に戻りました。このように今年度からの教育研究は、コロナ禍の影響をようやく脱したように思います。

最後に教員の受賞についてご報告します。令和5年度農業農村工学会大会講演会では、多田明夫准教授が「河川流出負荷量とその不確かさの推定に関する一連の研究」で農業農村工学会賞(学術賞)を、鈴木麻里子助教が「産業副産物を用いた農業水利施設の建設・改修技術に関する先導的研究」で農業農村工学会賞(研究奨励賞)を受賞されました。現在、農業農村工学会賞には多数の賞がありますが、それらの中でも学術賞、研究奨励賞は長い歴史を有する権威ある賞です。心よりその栄誉を称えたいと思います。なお、多田明夫准教授は、水文・水資源学会2023年度総会において水文・水資源学会賞(論文賞)も受賞されており、同氏の研究は各学会で高く評価されています。

現在、地域環境工学プログラムでは、田中丸治哉、井上一哉(教授)、多田明夫、澤田豊、長野宇規(准教授)、園田悠介、鈴木麻里子(助教)の7名が教育研究に従事しております。また、令和4年度末に定年退職された河端俊典先生は、引き続き理事・副学長として神戸大学の舵取りを担っておられます。水士会会員の皆様におかれましては、今後ともご支援、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



多田先生の受賞者講演

## 先生のご紹介

今年4月に着任されました園田先生にメッセージをいただきました。

### 生産環境工学コース土地環境学 (園田 悠介 助教)

水土会の皆様、お世話になっております。園田悠介と申します。2008年に神戸大学に入学し、2014年に修士を修了しました(土地環境学研究室)。その後、農林水産省に6年ほど勤め退職、2021年より博士課程、2023年に助教に着任いたしました。先生方、先輩方をはじめ、本当にたくさんの方の理解と助けがあつて今ここにいます。

まさか、農業土木の分野に入るとは、農林水産省で働くとは、辞めるとは、教員になるとは・・・高校時代の自分が聞くと驚くと思いますが、人生イロイロだと思っています。これからも様々なことに触れ、楽しく前向きに過ごしていきたいと思っています。

さて、私の今の研究対象は、地中構造物(パイプライン等)とため池です。パイプラインは学生時代から長く取り組んできた課題でもあります。一方、ため池の研究は(博士課程も含めて)ここ数年になります。その「付き合い」は行政時代に遡ります。



ため池堤体直下に家が(ため池は危ないもの?)

平成30年7月豪雨(西日本豪雨)でため池の危険性が社会問題化した直後、私は農水省内のため池新法制定に係る作業チームに入りました。ため池の定義は?ため池は土地か施設か?誰が所有?当時、法律専門の事務官から問い詰められた記憶があります。悲惨な災害を契機としてではありますが、曖昧だったため池の実態が少しずつ明らかになってきたと思います。研究テーマとしてのみならず、日頃からため池の保全や多面的なため池の良さを活かした活動に携わっていきたくと考えています。



学生とともに  
日々実験・・・

埋設管現場実験



ため池土石流  
流下実験

一方、近年、ため池決壊を防止するため、堤体を一部開削してため池を廃止する事例が急増しています。ただ、堤体の大部分は残るため、力学的根拠に基づいた適切な方法で開削・廃止する必要があります。将来の災害リスクを減らす最適な廃止の「設計」を探求しています。

この分野では、研究課題に取り組むとき、純粋な技術的、力学的課題のみならず、労働力不足や働き方改革、SDGsといった社会的課題も必ず併走します。そこにも目を向けながら、実際の現場が少しでも良い方向に向かう、そんな研究ができればいいなと思っています。まだまだ口だけ感で実力が伴っていませんが、多くの人の力を借りながら、1日1日着実に研究を進めてまいります。

コロナ禍も一応の収束をみせ、人とのつながり、賑わいが戻ってくることを期待しています。卒業生の方々におかれては、お近くにお越しの際はぜひ大学にお立ち寄りいただければ幸いです。



2023年3月学位授与式時の研究室集合写真  
(みんな少し顔が暗い!?)



## 受賞報告

今年度の農業農村工学会の学会賞を受賞されました多田先生と鈴木先生からメッセージをいただきました。



多田 明夫（生産環境工学コース水環境学 准教授）

### 2023年度 農業農村工学会賞(学術賞)を受賞して

会員の皆様におかれましては時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。この度、第72回農業農村工学会にて「河川流出負荷量とその不確かさの推定に関する一連の研究」という題目で学術賞を頂きました。平成6年7月の神戸大学着任以来、畑先生・田中丸先生の指導の下、研究室の学生諸氏の

協力も仰ぎつつ、水質研究継続の成果を高く評価いただきました。皆様に厚く御礼申し上げます。着任直後の神戸市北区の山田川と小型貯水池の水質・負荷量の調査研究、平成10年から28年にかけての奈良県五條市の山林流域と実験室での高頻度連続水質観測の研究、平成22年以降現在に至る、精度の高い河川負荷量の推定法と信頼区間の構成法へと研究を進めてきました。高頻度データがきちんと測定できる保証もなく、また普遍的な負荷量の推定法が確立できる確証もなく、手探りで学生諸氏と研究を進めてきました。まだ研究が手探りの状態から多くの学生諸氏と苦楽をともにしましたこと、大変懐かしく感じております。今回はこの大きな研究チームが評価をして頂いたものと感じております。今後さらに研究を進めていく所存です。ありがとうございました。



鈴木 麻里子（生産環境工学コース施設環境学 助教）

### 研究奨励賞「産業副産物を用いた農業水利施設の建設・改修技術に関する先導的研究」を受賞して

この度、2023年度農業農村工学会賞、研究奨励賞という身に余る賞をいただきました。正直、なぜ私が…という気持ちでいっぱいですが、これまで取り組んできた、ため池や農業用開水路など水利施設の老朽化対策・改修工法に有用な新しい建設資材に関する研究を評価していただき非常に嬉しく思っています。

農業水利施設の事故防止と施設の長寿命化や、ライフサイクルコストの低減を図る施設の改修工事、維持管理は、近年極めて重要な事項になっています。特に、ため池改修において良質な粘土質材料を確保することが難しい状況にあり、代替となる材料や新たな改修工法が求められています。そこで、本研究では、これまで農業分野で利用されることが少なかった碎石副産物に着目し、ため池遮水材への適用を考案しました。基本的な物性の把握や試験盛土施工など実用化へ向けて、力学特性や化学特性に関するデータを蓄積するとともに、産官学が一体となった再利用フローの構築を進めています。国内のため池が抱える材料不足と碎石業界が抱える副産物処理、双方の問題を同時に解決することを目指しています。

最後になりましたが、共同研究等でお世話になった企業の皆様や、現場試験でご協力くださった都道府県、農政局の皆様、一生懸命研究に取り組んでくれた学生の皆さんにはこの場をお借りし深く感謝申し上げます。

## 会員からの近況報告

### 鷺野 健二

（農林水産省農村振興局設計課海外土地改良技術室長・平成3年卒、平成5年修士修了）

早いもので、神戸大学修士課程を修了後、農林水産省に入り30年が経ちました。東京勤務が半分近くですが、国内では長崎、愛媛、熊本、岩手、沖縄、海外ではカンボジア、ジンバブエと多くの場所で勤務しました。昨年3月まで、在ジンバブエ日本大使館に勤務し、ジンバブエはハイパーインフレで有名な国ですが、私がいた3年間でも現地通貨は米ドルに対し50分の1程度価値が低下し、急激な物価上昇を経験しました。このほか、1日約18時間の停電、新型コロナ発生時は厳しい外出禁止令、日本帰国時は10日間ホテル隔離など、いろいろ難しい環境があり、今は日本の生活がとても心地よいです。一方で、良いこともたくさんあって、首都ハラレは気候が穏やかで年中エアコンがなくても生活でき、マンゴーやパイナップルなどおいしいフルーツが安く手に入り、世界三大瀑布のひとつであるビクトリアフォールズや野生動物の観光、20米ドル程度で18ホールを回ることができる近くのゴルフ場などは、日本にいては経験できないことで海外生活がなつかしくなることもあります。あと何度か転勤する機会があると思いますので、各地の良いところを見つけて楽しみたいと思います。



### 倉澤 智樹

（愛媛大学農学部助教・令和4年博士後期課程修了）

私は令和4年3月に博士後期課程を修了し、教員として愛媛大学農学部地域防災学研究室に着任しました。大学・大学院時代には地下水中の汚染物質の動きにかかる研究に着手していたのですが、現在は愛媛県の地盤に関わる災害、特に地すべりの研究にも傾倒しています。「地下水」から「地すべり」という、全く異なる現象に研究対象を乗り換えたように思われるかもしれませんが、地すべりの主要因子は地下水ですので、学生時代に培ってきた技術や知見を存分に活かしています。

また、愛媛県は気候が良く、優しい雰囲気土地柄で、妻とともにとても居心地良く、楽しく過ごせています。愛媛に来て最も

驚いたのは、流通するみかんの品種の多さです。夏季の数ヶ月を除いて、年中、何かしらの柑橘がスーパーに並んでおり、まさしくみかん大国なのだなと感じています。家でもみかんを食べる機会が増え、ビタミンが良好に摂取できているせいか、心なしか健康になれた気もしています。

今後とも新天地の愛媛県で、研究・教育ともに尽力して参りますので、水土会の皆様方におかれましては、変わらぬご指導・ご鞭撻をいただけますと幸いに存じます。



# 大学からのお便り



## 第17回神戸大学ホームカミングデイが開催されます

17回目を迎える今年のホームカミングデイでは、卒業生・教員によるパネルディスカッション、学生や職員による発表、応援団総部による演舞、その他学生企画の屋台や物販、特別展、各学部での企画など盛りだくさんの内容です。また、遠方の方は、初めての試みとして「ホームカミングデイin東京」を東京六甲クラブにて同時開催されます！詳細は、神戸大学ホームページでご確認ください。

ホームページ <https://www.office.kobe-u.ac.jp/plan-hcd-online/2023/>



ホームカミングデイ  
ホームページ

- 開催日：令和5年10月28日(土)
- プログラム：記念式典 10:15～12:10 出光佐三記念六甲台講堂  
学部企画 13:30～ 農学部C101

## 令和4年度収支決算および令和5年度収支予算

### 令和5年度 事業計画

(令和5年4月1日  
～令和6年3月31日)

- 総会の開催 通常総会の開催(書面審議によるものとします。)
- 情報提供事業
  - 大学での教育研究活動等に関する情報の提供  
会報を制作し、ウェブサイトや電子メールにより会員へ配信します。
  - 会員情報(会員名簿 PDF形式)の提供
- 交流会の開催  
会員同士の親睦を図る交流会を開催します。  
なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により判断するものとします。



収支決算(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

内容	決算額
1 前年度繰越金	204,944 円
2 事業収入(交流会不開催)	0 円
3 その他収入(預金利息)	2 円
収入合計	204,946 円
1 総会・交流会開催費(交流会不開催)	0 円
2 事務費	0 円
3 次期繰越	204,946 円
支出合計	204,946 円

収支予算(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

内容	予算額
1 前年度繰越金	204,946 円
2 事業収入(交流会参加費 @5 千円×50 名)	250,000 円
3 その他収入	0 円
収入合計	454,946 円
1 総会・交流会開催費	250,000 円
2 事務費	10,000 円
3 予備費	194,946 円
支出合計	454,946 円

## 会員名簿更新のお願い



<https://miitus.jp/t/Suidokai/>

水士会

検索

水士会会報は、登録いただいているメールアドレスへ配信しています。人事異動等に伴って、住所や勤務先など登録情報に変更が生じた場合は、水士会ホームページより各自で更新をお願いします。

### 編集後記



卒業生が主体となって運営する新「水士会」が設立され、初めてとなる交流会を9月に開催することができました。当日、久しぶりにお会いする会員や先生方とともに楽しい時間を過ごすことができました。都合が合わず、交流会に参加できなかった方々におかれましては、ぜひ、次回のご参加をお願いいたします。(岡)